

すべては子供たちの笑顔のために

東信教育事務所

令和5年3月9日

〒384-0006

小諸市与良町6-5-5

Tel.0267-31-0251

Fax.0267-31-0140



バックナンバーはこちらから

# 響

ひびき

Vol.9



たくさんのひびき。

## Hibiki vol.9 「ひびき」

- “ご挨拶”
  - ・ 所長、各課長より
- “授業から学ぶ”
  - ・ そして、わたしの生き方について考える
- “研修の窓”
  - ・ 立ち止まり、振り返り、そしてまた次へ
- “考える部屋”
  - ・ 自分で課題を見つける力を育成する
- “SSWの笑門来福”
  - ・ 医療との連携
- “お知らせ”
  - ・ 令和5年度学校教育課の主な研修会等の予定
- “生涯学習課より”
  - ・ 今年度の主な事業報告

「氷がとけたら何になりますか」

「水になる」と答える子もいるでしょう。

「春になる」と微笑む子もいるでしょう。

子供はたくさんの答えをもっています。

子供は心で動いているのだから。





## 年度末のごあいさつ

所長 宇都宮 純

今年度の当所の事業につきまして、ご理解、ご協力をいただきましたことに御礼申し上げます。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大に大きな影響を受けながらも「子供たちの学びを最大限止めない」と「安心安全な学校運営」にご尽力いただいたことに対しまして敬意と感謝を申し上げます。

政府は5月連休明けから感染症法上の5類感染症への変更の方針を示すなど、コロナ後の様子も徐々に明らかになってまいりました。

コロナ禍で定着しつつある手洗いや換気などの感染症対策の徹底やICT機器を活用した授業などを継続しながら、今後の学校運営を検討する時期となりました。

来年度も当所としましては、引き続き、小中学校を支援するために事務所だより「響」をはじめ各種事業を進めてまいりますので、皆様方からの忌憚のないご意見ご要望をお待ちしております。

学校教育課長 石川 政好

本年度は、サッカーワールドカップで日本代表が、スペインとドイツを初めて破るという大躍進がありました。これも日本サッカー協会が、今から30年も前に100年構想を打ち出し、世界に通用する選手の育成をしてきたからです。

教育も100年先とは言いませんが、予測が困難な時代にあっても、5年、10年、20年、30年先を考え、様々な社会の変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力をこれからの社会を形成していく子供たちに育成していくことが重要です。当事務所も、そんな思いを学校の先生方と共有しながら、この1年間伴走してまいりました。

学校訪問や諸研修等でも大変お世話になりました。今後も「すべては子供たちの笑顔のために」を合言葉に、先生方と手を取り合い、夢をもって前進してまいります。1年間、本当にありがとうございました。

次長兼総務課長 山越 美久

令和4年度は、3年にも及ぶ新型コロナウイルス感染症への対処に加え、ロシアによるウクライナ侵攻など、変動・不確実・複雑・曖昧が凝縮されたような一年でした。加えて多様性への対処、また、人口減少・少子高齢化に起因する部活動の地域移行など、教育を取り巻く環境は混とんとしております。しかし、今を生きる子供たちには、この時代が標準であり、そのような社会にあってこそ「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により『個人と社会のウェルビーイングの実現』を目指して取り組むことが大切であると考えます。この地域に暮らし、学ぶ子供たちの健気な姿を見ながら、どれだけの下支えができたのだろうかと反省しつつ、それでも一年を終えることができそうで安堵しております。関係する全ての皆様に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

“ヘルメット姿の子らの登校す浅間火口の麓にあれば” … 毎朝、元気を貰いました。

生涯教育課長 中野 禎仁

コロナ禍ではありましたが、少しずつ地域との連携が回復し、「関わり合う、ふれあう」ことの大切さを感じる1年間となりました。

学校と地域の協働が叫ばれる中、学校と地域が共並びで子供が育つ環境づくりを目指してまいりました。

あるボランティアの方の声です。「私は先生たちようにはできない、けれど、先生に〇〇について助けてください。なんて、言われると自分のできることならと、ほんの少しですが力をお貸しできます。」笑顔で語ってくれます。

私は、子供たちも先生方も地域の方も一人ひとりがみんなの中で自分らしくあってほしいと思っています。令和の時代も「おたがいさま」で社会が成り立つことを願ってやみません。

1年間、様々な面でご支援とご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

## 授業から学ぶ

6年・道徳人權  
「一歩踏み出すために」



# そして、わたしの生き方について考える ～自分の身の回りに引き寄せて～

道徳科の授業において「自分だったらどうですか」という発問は、「自分事」で考えることを促す意図をもってよく用いられます。A小学校では、この「自分事」について改めて考え合ってきました。

A小学校では、あけぼの「わたしの道を～高橋くら子の生き方」を扱った道徳（人権教育）を数年間続けて研究し、全校研究会を通して児童理解を深め、同和問題について研修を重ねています。

今年度の授業改善の視点の一つは、「自分事」で考えることの見直しでした。これまでの学習展開では、学校で同級生から差別されたくら子が、修学旅行の夜には誰一人枕を並べてもらえず、一人離れた場所で、枕を涙で濡らしながら歯を食いしばっていた場面について考える際に、「自分だったら」と、その場に同級生として自分がいたことを想定して考える活動を展開してきました。

### 「自分事」の これまで

<明治大正の子供たち>  
・多くの親が差別をしている時代  
=差別が許されている状況  
・差別された経緯が知らされていない

<本学級の子供たち>  
・差別が人として許されないことであるという社会認識  
・差別された経緯を学んでいる



自分だったら  
どうしますか？

・差別はいけないのだからくら子さんの横に布団を敷く  
・友達に話して、友達と一緒にくら子さんの横に布団を敷く  
・こうなる前に、クラスの問題にして差別していることをやめる

これは、子供が自分事に行っていると言えるのだろうか？

### 「自分事」の 見直し

差別することに対する問題意識を高める  
道徳的価値を理解する

当時の状況にある同級生の心境を想像する  
人間としての弱さを理解する

今の自分の身の回りに引き寄せ、自分の姿を振り返り、自覚を促す  
自己の姿を振り返る

「私も、私たちの修学旅行でのことも、考え直したいと思う」

教材にある事実に対して問題意識を高め、その状況にある人の弱さについて心を寄せて考えたのち、A児は立ち上がり発言しました。修学旅行の際に上手にグループ編成ができず、切ない思いをさせてしまった友達のことを思い出し、その時自分が一緒に組みたい人と組むために、自分の気持ちを優先させてしまっていたことを振り返りました。先生は、それを全体にむけて投げかけました。

そして子供たちは、その時の事実を自分の弱さとして認めながら振り返り、ワークシートに書いていきました。B児は、一人ぼっちの友達に対して、「声をかけられないかもしれない。自分の組みたい人と、安全なところでいってしまうかもしれない」と書き、手を止めました。そして、目を閉じて天井を見上げたり、そわそわとあたりを見回したりしました。先生は、何かを感じ取ったのか、「何か…、言い残したようなことあるかな？」と声をかけました。するとB児は手を挙げて、「先生、…書いてないことなんだけど…」と語りだしました。B児は、去年の宿泊学習の際にも、一旦組んだ自分のグループを崩すことができず、仲間に入りたかった友達に切ない思いをさせてしまったことを悔やんでいました。時折涙を拭きながら、その時の自身の弱さを最後まで語りました。

教材にある問題場面をきっかけに、道徳的価値について考え、自己を振り返る中で、過去の自分の姿が頭をよぎったのかもしれませんが。B児が過去の自分に語り掛けるように話す姿は、ただ悔いているだけではなく、これからの自分の生き方へ一歩踏み出す覚悟を感じさせる姿でした。そして、B児はワークシートに「自分の班を分解する覚悟。いいわけをする自分をなくす」と記しました。



「自分事」を、問題場面に自分を飛び込ませて考えるようにすることから、その状況を今の自分の身の回りに引き寄せ、自分に関連のあることとして考えられるように見直しました。道徳科の学習指導要領に示される「自分自身との関わりで考える」に立ち返った実践です。



## 立ち止まり、振り返り、そしてまた次へ ～初任者 1年次、2年次プログレス研修～

1月24日に2年次、1月31日に1年次のプログレス研修が参集で行われました。一年間行ってきた実践と、今後の目標について仲間と語り合うことを通して、これから自分の進むべき道について考えました。

### 2年次プログレス研修

2年目の先生方からは、昨年度より見通しがもてるようになり、生徒に具体的につけたい力が見えてきたという話がありました。A先生は、昨年度、生徒の姿をしっかりと捉え、このような姿を目指したいという思いが生まれ、今年度実践している様子が伝わってきました。



1年目は、どうやって授業を行うのかということを中心に考えていましたが、2年目は、生徒は授業で何がわかって、何がわからないのかという生徒のことを知ることを大切にしました。

生徒をよく見ること、知ることによって生徒の意識にそった授業につながるということがよくわかりました。



中学校 A先生

#### 1年目は

生徒が主体となる授業になっていない。生徒がどうやったら主体的に授業に臨めるのか考えたい。

生徒の振り返りが、授業の感想になっていた。授業で何を学んだのかを自覚できるようにしたい。

#### 2年目は

振り返りで何について振り返るのかを伝えたり、1時間の流れがわかる板書を意識したりした。そのことで、生徒が学んだことや困っていることをよりつかむことができ、指導に生かすことができ、生徒の主体的に学ぶ姿につながった。

#### 3年目へ

単元のまとまりの中でも、何を学んだのかを振り返ることができるようにしていきたい。

先のことをもっと見通して、この單元ではどんな力を育成するのかを明確にして指導をしていきたい。

### 1年次プログレス研修



～2年目に向けて～

- 教材研究を重ね、子供たちが主体となり、興味もてるような授業づくりに励んでいきたい。
- 振り返りをただ書くのではなく、何のために行うのかを考えることが必要だと思った。
- 子供たちの「やりたい」「伝えたい」「分かるようになりたい」そんな願いや考えを大切に授業を構想していきたい。



1年間、時には悩んだり反省をしたりしながら、子供たちのために一生懸命走り続けてきた様子を語る先生方でした。

自己課題や実践の発表で、子供の具体的な姿をもとに話す姿からは、お一人お一人の先生方が日頃から、子供たち一人一人ときちんと向き合っている様子がとてもよく伝わってきました。仲間と語り合う中で見えてきた、来年度から自分の進むべき道。常に学び続ける先生方を、私たちはこれからも応援しています。





# 自分で課題を見つける力を育成する ～全国学力・学習状況調査 国語科の結果から～

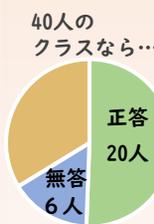
今年度の調査問題に、以下のような興味深い結果が見られました。そこに示された、授業改善のヒントをご紹介します。  
問題全文はこちらから→



中学校国語の調査において、「同じ指導事項を問うているのに、正答率に大きな差がある」という結果が見られました。それは、大問1の一と三です。（長野県の調査結果より）

対応する指導事項「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」（〔第1学年〕A 話すこと・聞くこと ウ）

正答率  
50.6%  
無答率  
15.7%

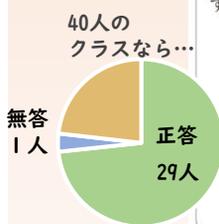


川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

聞き手に関心をもってもらうために、ゆつくり大きな声で話すことではないでしょうか。

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているので、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してみようでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話をすること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆつくり大きな声で話すことではないでしょうか。

正答率  
73.3%  
無答率  
3.5%



川口 ありがとうございます。

田中 ここで動画を止めてもらえますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみようでしょうか。「やりとりをスムーズに行いたい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができましたのでよいと思います。



二人の会話の一部

1

川口さんは、国語の時間に、最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて助言をもらっています。次の【川口さんのスピーチ】と【二人の会話の一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

川口さんは、【二人の会話の一部】の線部①「呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみようでしょうか」という田中さんからの助言を受け、「最近ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分に言葉を加えて直すことにしました。あなたならどのように直しますか。実際に話すように書きなさい。

【二人の会話の一部】に線部③「他の部分も話し方を工夫してみます。」がありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 【川口さんのスピーチ】のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。  
条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

（出典 令和4年度 全国学力・学習状況調査 中学校国語 大問1一、三）

1の一では、田中さんの言葉によって「意図（どうして）」と「箇所（どこを）」が示され、「方法（どのように）」も具体的に示されているため、比較的答えやすくなっています。しかし、三では、意図や修正する箇所や方法を自分で考えるため、比較的答えにくくなっています。指示されると答えられるが、自分で課題を見つけることは苦手としている生徒の姿が見えてきませんか。

このような傾向は自校にみられませんか。結果を改めて確認してみましょう。そこからはどのような生徒の姿が見えてきましたか。そして、どのような授業の工夫が考えらるでしょうか。

問題の詳しい分析と授業アイデア例はこちらから→





SSWの

笑門来福

みんなの笑顔のために

医療との連携

～ 学校と医療の相互連携 ～



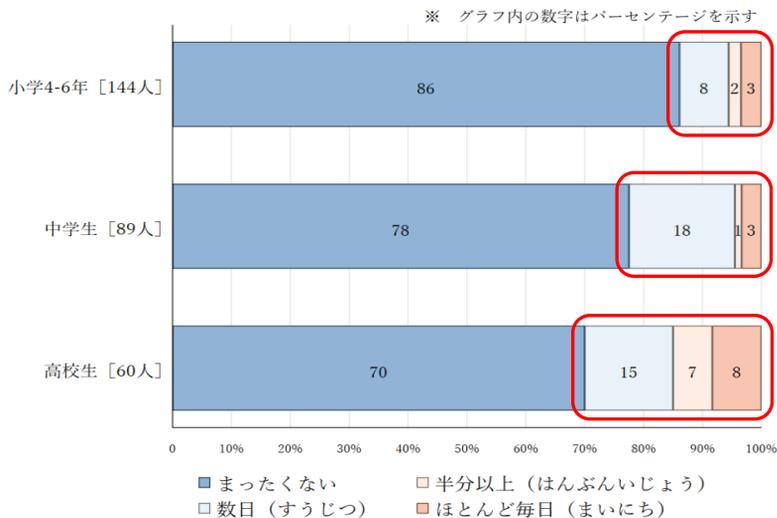
コロナ禍の数年、精神科への受診を繋げる機会が以前と比べて非常に多くなりました。メンタルのこと、医療との連携についてお話しします。

## 子供の SOS に気付く

日々関わる子供たちの中でメンタル面が心配な児童生徒はいませんか？

コロナ禍の3年間にSSWへの依頼で急増した内容は「希死念慮」「自殺企図」がある子供を医療に繋げるものです。コロナの影響で休校や人と距離を取らねばいけない生活から「友達と話す機会」や「先生に相談する機会」が減り、自宅で過ごす時間が多くなった子供達。自分の中のモヤモヤをどう処理すればよいか分からずにメンタルに支障をきたす子供（大人も！）が増えています。

死んだ方がいい、または自分を何らかの方法で傷つけようと思ったことがある 2022年3月



国立成育医療研究センター  
「コロナ×こどもアンケート」

左図を見てもらうと分かるように、小学校高学年から希死念慮をもつ子供が増え、中学生の2割、高校生の3割が希死念慮があるという結果が出ています。

実際に自分の身体を傷つけている子供も一定数います。周囲の対応の仕方によっては悪化してしまう場合もあるので要注意です。

## 医療につなげる

子供達、またその保護者にとって、精神科や発達外来の受診はとてもデリケートでハードルが高い問題です。伝え方によっては拒否されてしまう場合もありますし、せっかく受診に繋がっても初診で行かなくなってしまう、継続受診に繋がらないケースも多々あります。連携しやすい病院、連携の取れる医師も様々です。「どの病院にどのような医師がいて、こんな検査ができて…」という多くの情報を持っているのは、SSWや地域の保健師です。受診への繋げ方や病院の選択に迷った時は、ぜひご相談ください。

## 医療との連携

医師からは専門的な視点からの評価をしてもらえますが、受診は2週間から1か月に一度が一般的です（発達外来においては半年に一度の病院もあります）。

その間の本人の様子（服薬を始めて変化があったか、日々の様子や表情はどうか等）は身近にいる先生の方がよく分かります。日頃の様子を書面で病院に伝えることと、医療的な意見をもらうことを相互に行いましょう。医療ソーシャルワーカー（MSWやPSW）に間に入ってもらうとスムーズな連携が取れやすいです。

## R5 学校教育課の主な研修会等の予定（※初任者対象を除く）

**授業づくり学級づくり研修会** 対象：臨時的任用教員及び希望者

期日	会場
第1回 5月30日（火） 第2回 7月13日（木） 第3回 11月16日（木） 第4回 1月15日（月）	東信教育事務所

**授業づくり相談** 対象：すべての希望者

期日	方法
5月～2月 希望する日時（随時受付）	電話やzoom等で

**研究主任研修会** 対象：研究主任、ミドルリーダー等

期日	会場
第1回 5月12日（金） 第2回 8月25日（金） 第3回 11月24日（金） 第4回 1月30日（火）	第1・3回 東信教育事務所 第2・4回 各学校等（オンライン）

**研究主任サポートネット** 対象：はじめて研究主任になった先生、希望者

期日	会場
5月23日（火）	各学校等（オンライン）

**全国学調の問題を生かした授業改善・充実研修Ⅰ** 対象：研究主任、ミドルリーダー等

期日	会場
第1回 5月11日（木） 第2回 5月18日（木）	各学校等（オンライン）

**道徳教育パワーアップ研究協議会** 対象：道徳教育に携わる教職員・道徳教育担当者等

期日	会場
第1回 8月2日（水） 第2回 1月16日（火）	各学校等（オンライン）

**学校人権教育研修・連絡協議会** 対象：学校人権教育に携わる教職員・人権教育担当者等

期日	会場
5月18日（木） 上小・佐久合同	各学校等（オンライン）
10月23日（月） 佐久	佐久合同庁舎
11月2日（木） 上小	上田合同庁舎

**外国人児童生徒等指導研修会** 対象：外国人児童生徒の指導に携わる担当者・学級担任等

期日	会場
第1回 6月1日（木） 第2回 11月14日（火）	第1回 各学校等（オンライン） 第2回 上田市立南小学校

**初任者研修関係** 対象：初任研研修コーディネーター

研修会名	期日	会場
初任研研修コーディネーター等連絡会	4月13日（木）	東信教育事務所
初任研研修コーディネーター等研修会	7月10日（月）	
初任研関係学校長等連絡協議会	2月19日（月）	

**不登校・進路相談関係** 対象：相談を希望する中学生及び保護者

相談会・説明会名	期日・会場
進路はれやか相談会	8月21日（月）・佐久創錬センター／8月22日（火）・上田創造館
高校進学説明・相談会	10月30日（月）・上田創造館／11月10日（金）・佐久創錬センター

## 今年度の主な事業報告 ～社会教育・スポーツ振興・社会人権～

今年度最後の事務所だよりになります。今回は、これまでの事務所だよりでお伝えできなかった事業を中心に報告・紹介します。



### 社会教育

#### ◆子どもが育つ地域共育フォーラム

講演「子育てと教育の根底を考える～コロナ禍の今、考えたいこと、変わらず大切なこと～」と、コミュニティスクール、共生社会、子どものSOSの受け止め方、子ども食堂をテーマに4つの分科会を実施しました。多様な実践事例から、よりよい連携・協働のあり方を学びました。

#### ◆コミュニティスクール参観

学校運営委員会や子どもと地域住民が一緒に活動している様子を31回参観し、地域の方の思い等に触れさせていただきました。

また、学校運営委員会では県内で行われている事例を紹介しました。



### スポーツ振興

#### ◆総合型地域スポーツクラブネットワークアクション

講演「融合型部活動への取組 ～軌跡・現在・将来～」を実施しました。子どもを中心にしたスポーツに親しめる体制づくりの取組に学び、考え合いました。

#### ◆スポーツ指導者連携会議

講演「パラリンピックから学んだこと」を実施しました。

スポーツだからこそできること、障がい者スポーツの意義について学び、「共生社会を目指したスポーツ環境づくり」について考え合いました。

#### ◆スポーツ用具の貸出

- 新規購入  
・モルック ・ラダーゲッター等
- スポーツ用具一覧表をHPに掲載

#### ◆運動教室への講師派遣事業

「ぐっすり眠れる 全身リラックスストレッチ」  
職員研修で先生もリフレッシュ!!



## 社会人権教育

### ◆非違行為防止研修

ハラスメントや体罰といった非違行為防止研修を4校で実施しました。法整備の状況や、非違行為が周囲に与える影響など様々な視点から研修を行いました。

### ◆出前講座(人権教育研修会)

公民館や学校など様々な場所で実施し2月末現在、33回、2300人以上の方が受講しました。

同和問題や性的少数者、障がい者の人権といった人権課題と共に、アンコンシャスバイアスなど私たちの無意識の人権感覚を振り返る場を大事にしました。



## 令和5年度 先生方に参加いただきたい事業

	期日	会場(予定)	研修会名
社会教育	10月20日(金) 午後	佐久平交流センター	子どもが育つ地域共育フォーラム 兼 学社連携・協働意見交換会
	12月4日(月) 午後	東信教育事務所	地域コーディネーター研修会
スポーツ 振興	9月1日(金) 13:30~	東御市 中央公民館	総合型地域スポーツクラブ ネットワークアクション
	10月27日(金) 13:30~	東信教育事務所	スポーツ指導者連携会議
社会人権 教育	6月27日(火) 13:30~	佐久平交流センター	社会人権教育研修会
	7月28日(金) 13:30~	佐久市望月地区	第1回実践力スキルアップ講座

上記事業は、ぜひ年間行事予定表にいらていただきたい事業になります。今年度も、生涯学習課の事業に参加・協力をいただきありがとうございました。



# 響

東信教育事務所だより「響」について、多くの方々から、記事について温かなお声がけをいただきました。ありがとうございました。  
来年度も引き続き、親しんでいただければ幸いです。

## 編集後記

こんな思いをもって  
編集しています。



1

東信の学校の学校づくり、先生方の授業の工夫、子供たちの営みの姿を、具体的にお届けしたいと思っています。

2

研修会の内容や、参加された先生方の姿や学んだことについて、校内に広げられるようにしていきたいと思っています。

3

最新のトレンドやテーマなどについて、先生方同士で考え合えるような形にして提供したいと思っています。

目に優しい紙面づくりを心がけています。



## お寄せください

右記二次元コードより、記事へのご感想ご意見、来年度への要望などをお寄せください。来年度への取材や編集に生かしてまいりたいと思います。<https://forms.gle/cD6LALYBPpa8jne9X8>

